

# 2024年3月期 第3四半期 決算説明資料

株式会社ゼネラル・オイスター  
(3224)



2024年2月14日



# 1. 2024年3月期 第3四半期 決算 トピックス



# 2024年3月期 第3四半期 決算ハイライト

## 第3四半期の営業利益は、販管費率の増加などにより減益

1

売上高は2,887百万円と、前年から+1.5%増収となったが、営業利益は加工事業の低迷や販管費の増加により前期比△45.2%の50百万円と減益。

## 主力事業の店舗事業、卸売事業が増収で着実に成長

2

主力事業の店舗事業は、将来に向けたスクラップ&ビルド（4店舗の出退店）や業態変更（2店舗）を実施したことにより、営業利益では減益。卸売事業は、売上高が対前年比+36.2%、営業利益が対前年比+33.7%と、増収増益。一方、加工事業は受託事業の主力のホタテ加工が、ホタテの価格上昇により、回転すしチェーン向けの受注が大幅に減少し、減収減益となった。

## FC1号店を北海道・札幌市に開業

3

複数の成長軸をもった持続的成長の実現と企業価値の向上を図るため、初のFC店舗を北海道札幌市に開業。11月30日のオープン以来、好調に推移している。

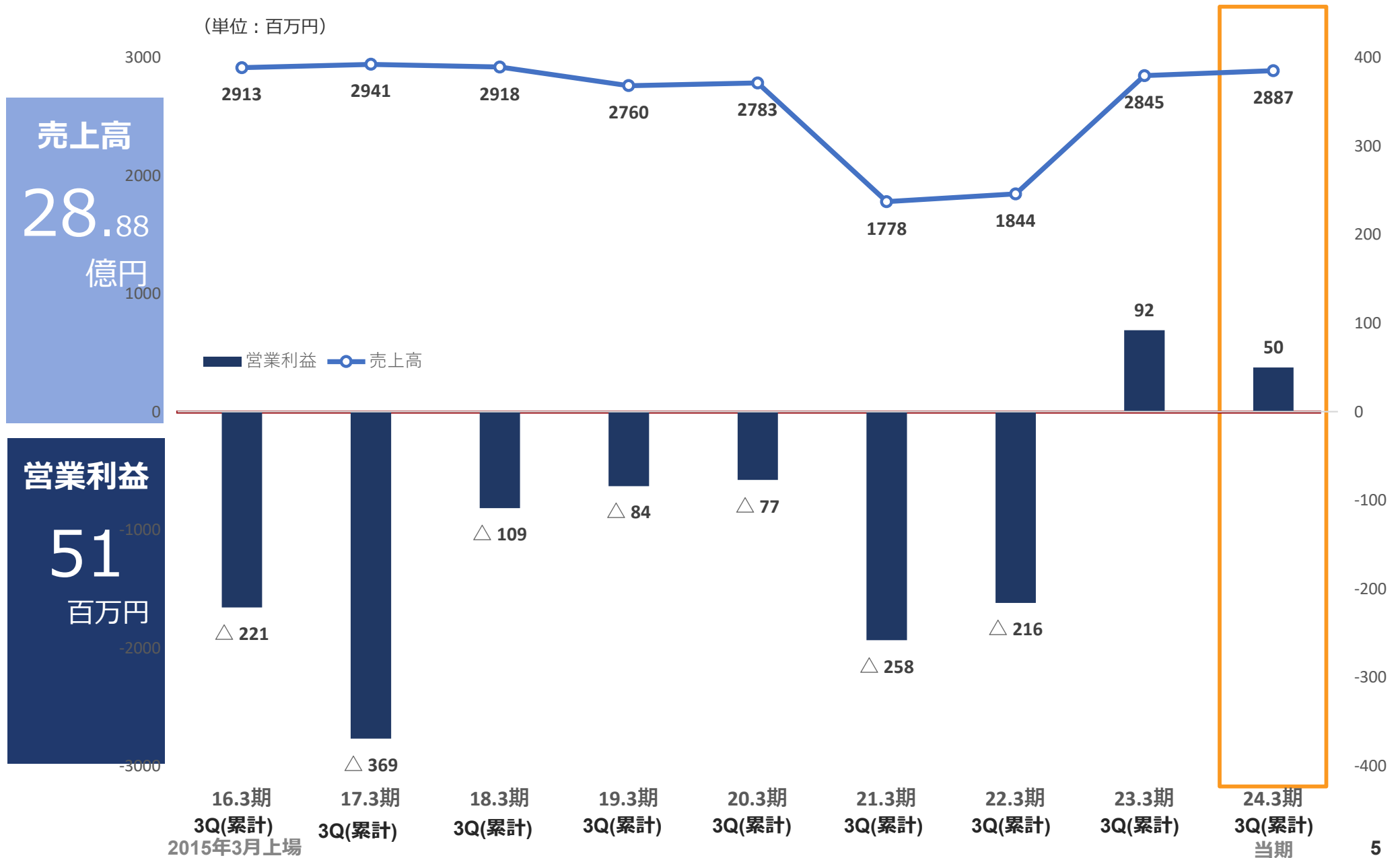
売上高は2,887百万円（前年同期比1.5%増）となり、コロナ前（2020年3月期）を上回る。

一方、営業利益50百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益59百万円は、販管費の増加などにより前年比で減益。

	2020年3月期 第3四半期（累計） （参考・コロナ前）		2023年3月期 第3四半期（累計）		2024年3月期 第3四半期（累計）		前年同期比 （%）	
	実績 （百万円）	構成比 （%）	実績 （百万円）	構成比 （%）	実績 （百万円）	構成比 （%）		
売上高	2,783	100.0	2,845	100.0	<b>2,887</b> ①	100.0	+42 (+1.5%)	① コロナ前及び 前年を上回る
売上原価	958	34.4	1,081	37.9	<b>1,009</b>	34.9	-73 (△6.7%)	
売上総利益	1,825	65.5	1,763	61.9	<b>1,878</b>	65.1	+114 (+6.5%)	
販売管理費	1,902	68.3	1,671	58.7	<b>1,827</b> ②	63.3	+156 (+9.4%)	② 店舗のスクラップ アンドビルドなどに より、販管費が前年 より増加
営業利益	△77	-2.7	92	3.2	<b>50</b>	1.8	-41 (△45.2%)	
経常利益	△84	-3.0	92	3.2	<b>47</b>	1.6	-46 (△49.1%)	
特別利益	-		11	0.3	<b>4</b>	0.2	-7	
特別損失	-		13	0.4	<b>5</b>	0.2	-8	
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	△59	-2.1	95	3.3	<b>59</b>	2.0	-36 (△37.7%)	

# 連結業績について

売上高は微増であったが、営業利益は販管費の増加などにより、対前年△45.2%の50百万円と減益。

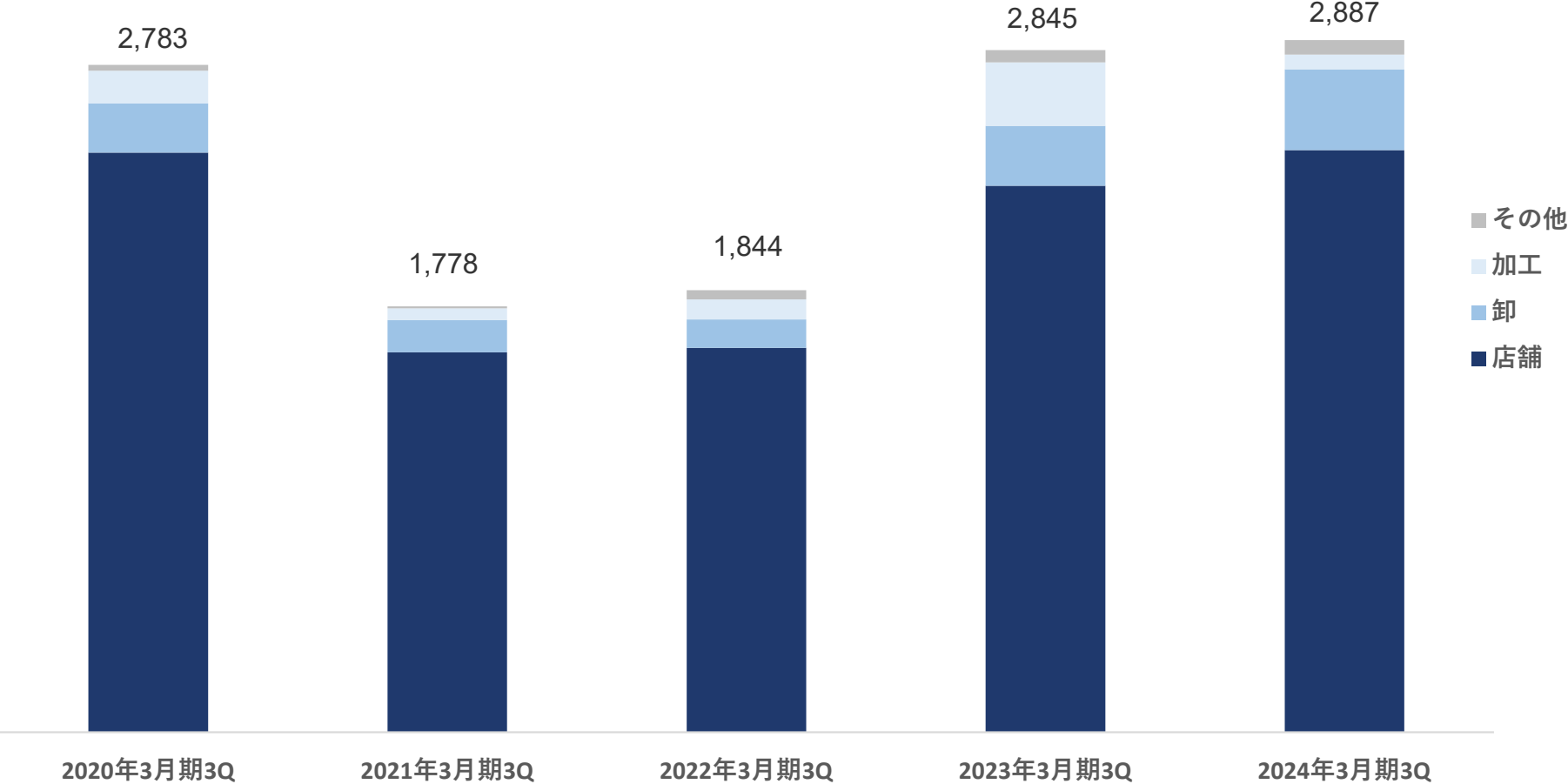


# 連結売上高推移

卸売事業が過去最高売上を更新、店舗事業はコロナ前の水準まで回復し、連結グループ全体ではコロナ前を超える売上となった。

## 連結売上高推移

(百万円)



店舗の将来に向けたスクラップ&ビルド（4店舗の出退店）や業態変更（2店舗）を実施したことなどで、販管費が全社で+9.4%増加したことと、加工事業の減益（対前年-32百万円）で営業利益は50百万円と減益

(百万円)	2023年3月期 3Q	2024年3月期 3Q	前年同期比	増減率
<b>売上高</b>	2,845	<b>2,887</b>	+42	+1.5%
売上原価	1,081	<b>1,009</b>	△73	
原価率	38.0%	<b>34.9%</b>	△3.1pt	
<b>売上総利益</b>	1,763	<b>1,878</b>	+115	+6.5%
売上総利益率	62.0%	<b>65.1%</b>	+3.1pt	
人件費	665	<b>701</b>	+36	
備品消耗品費	63	<b>73</b>	+10	
募集費	16	<b>38</b>	+22	
その他販管費	925	<b>1,014</b>	+89	
販管費合計	1,671	<b>1,827</b>	+157	+9.4%
販管费率	58.7%	<b>63.2%</b>	+4.5pt	
<b>営業利益</b>	92	<b>50</b>	△42	△45.2%
営業利益率	3.3%	<b>1.8%</b>	△1.5pt	

# 貸借対照表概要

2024年3月期第3四半期末の総資産は23.9億円、前期末に対して微増。  
自己資本は10.8億円、自己資本比率は45.1%を確保。引き続き、収益力を高め、財務基盤の強化を図る。

(百万円)	2023年3月期 期末	2024年3月期 第3四半期		2023年3月期 期末	2024年3月期 第3四半期
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
流動資産	1,592	1,380	流動負債	526	506
現金及び預金	1,334	959	買掛金	102	160
売掛金	194	329	短期借入金 <sup>*1</sup>	67	67
原材料	38	58	その他	356	278
未収入金	10	0	固定負債	845	828
その他	13	32	長期借入金	454	404
固定資産	531	724	その他	390	424
有形固定資産	531	711	負債合計	1,371	1,334
その他	—	13	<b>純資産の部</b>		
投資その他資産	267	294	株主資本	1,020	1,082
敷金及び保証金	244	286	その他	△2	△17
繰延税金資産	23	7	純資産合計	1,018	1,064
資産合計	2,390	2,399	負債純資産合計	2,390	2,399

\*1．1年内返済予定の長期借入金を含む



# セグメント別業績概況

卸売事業は、今まで牡蠣の取り扱いを控えていた外資系ホテルや、外食チェーンなどの取引先数が拡大し増収増益となった。一方、「加工事業」については受託事業の受注が減少し、前期に比べ損失幅が拡大。

## セグメント売上高

(百万円)	2023年3月期 3Q	2024年3月期 3Q	前年同期比	増減率
店舗事業	2,284	<b>2,450</b>	+166	+7.3%
卸売事業	250	<b>340</b>	+90	+36.2%
加工事業	266	<b>62</b>	△204	△76.6%
その他 ※1	51	<b>61</b>	+10	+19.2%
調整	-6	<b>-26</b>	-20	
<b>合計</b>	<b>2,845</b>	<b>2,887</b>	<b>+42</b>	<b>+1.5%</b>

## セグメント営業利益

(百万円)	2023年3月期 3Q	2024年3月期 3Q	前年同期比	増減率
店舗事業	311	<b>297</b>	△15	△4.7%
卸売事業	80	<b>108</b>	+27	+33.7%
加工事業	-21	<b>-54</b>	△33	—
その他 ※1	0.1	<b>7</b>	+7	+3688%
調整	-278	<b>-307</b>	△29	—
<b>合計</b>	<b>92</b>	<b>50</b>	<b>△42</b>	<b>△45.2%</b>

\*1 : EC通販、海外卸など

\*1 : EC通販、海外卸など

売上高はコロナ前の水準へ回復し、前年より売上は増加したものの、将来に向けたスクラップ&ビルド（4店舗の出退店）や業態変更（2店舗）を実施したことにより販管費の増加により減益

(百万円)	2023年3月期 3Q	2024年3月期 3Q	前年同期比	増減率
売上高	2,284	2,450	+166	+7.3%
営業利益 (*1)	311	297	△15	△4.7%
営業利益率	13.7%	12.1%	△1.5pt	—

### 店舗事業 売上高推移



\*1．セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

\*2．FC店舗の売上は、ロイヤリティ収入のみ計上

# 店舗事業（出退店及び店舗数について）

新規出店5店舗（FC1店舗）、退店4店舗、業態変更2店舗  
 ⇒2023年12月末全店舗数：26店舗（直営：25店舗、FC：1店舗）

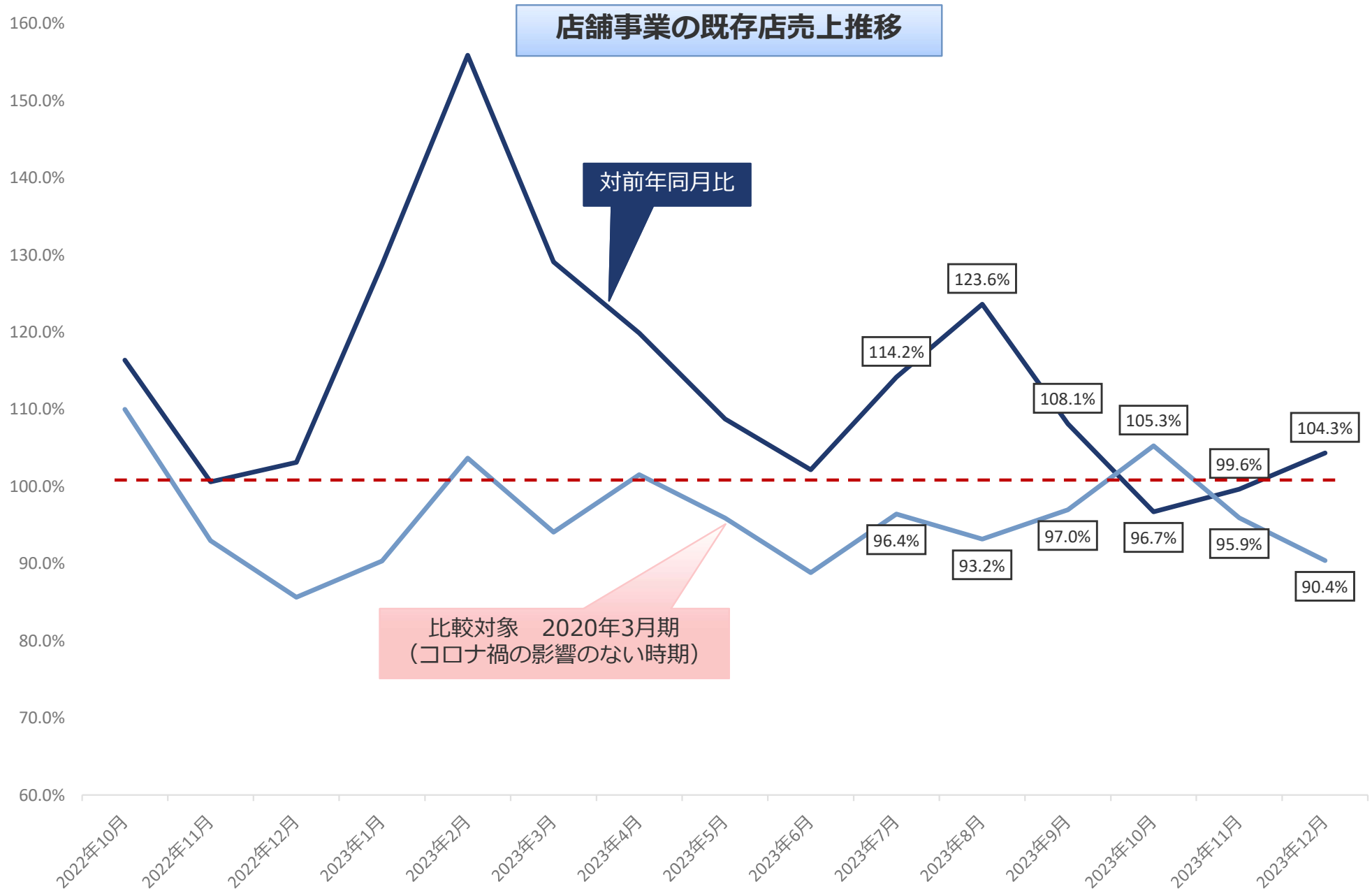
	2023年 3月末 店舗数	増減数		2023年 12月末 店舗数	業態変更
		出店	退店		
直営店舗 合計	25	4	4	25	2
FC店舗		1		1	
全店舗店舗 合計	25	5	4	26	

新規出店5店舗の主な内訳

- ・ 今後のグループ主要ブランド「8TH SEA OYSTER Bar」  
 （直営店舗）パルコヤ上野、ヒカリエ渋谷、ソラリア天神、（FC店舗）ココノススキノ
- ・ 新業態「8TH SEA OYSTER Market Kitchen」  
 阪急うめだ本店
- ・ 業態変更「8TH SEA OYSTER Bar」ヘリニューアルオープン  
 ミント神戸、阪急32番街

# 店舗事業（既存店売上高（前年比、コロナ前比））

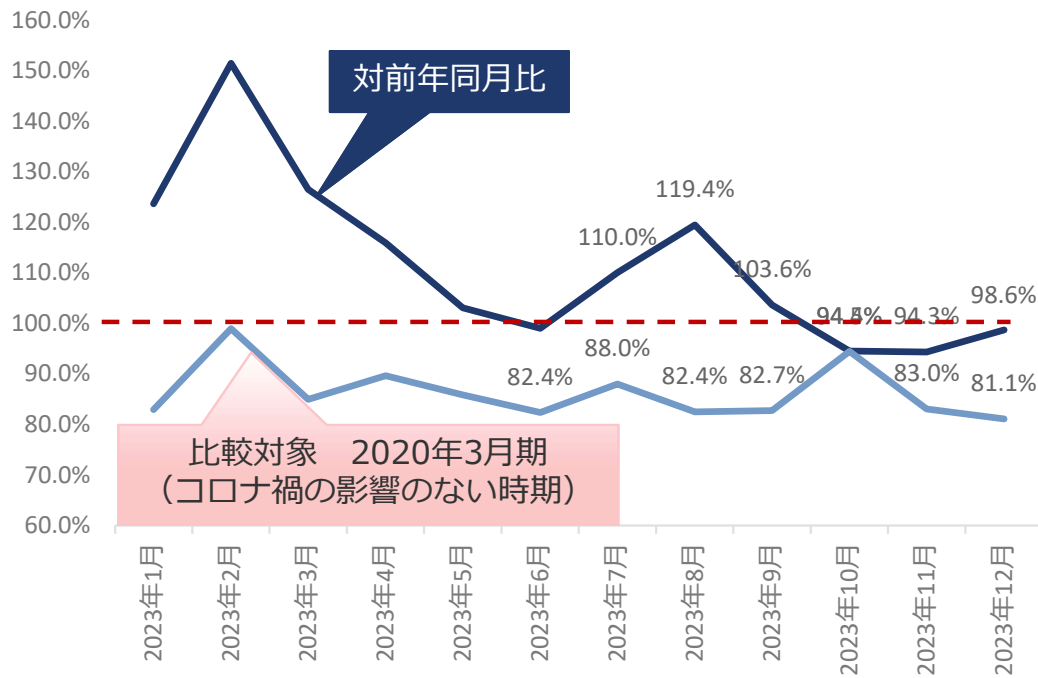
5月の新型コロナウイルス感染症が5類に移行した影響等により、売上高は堅調に推移。



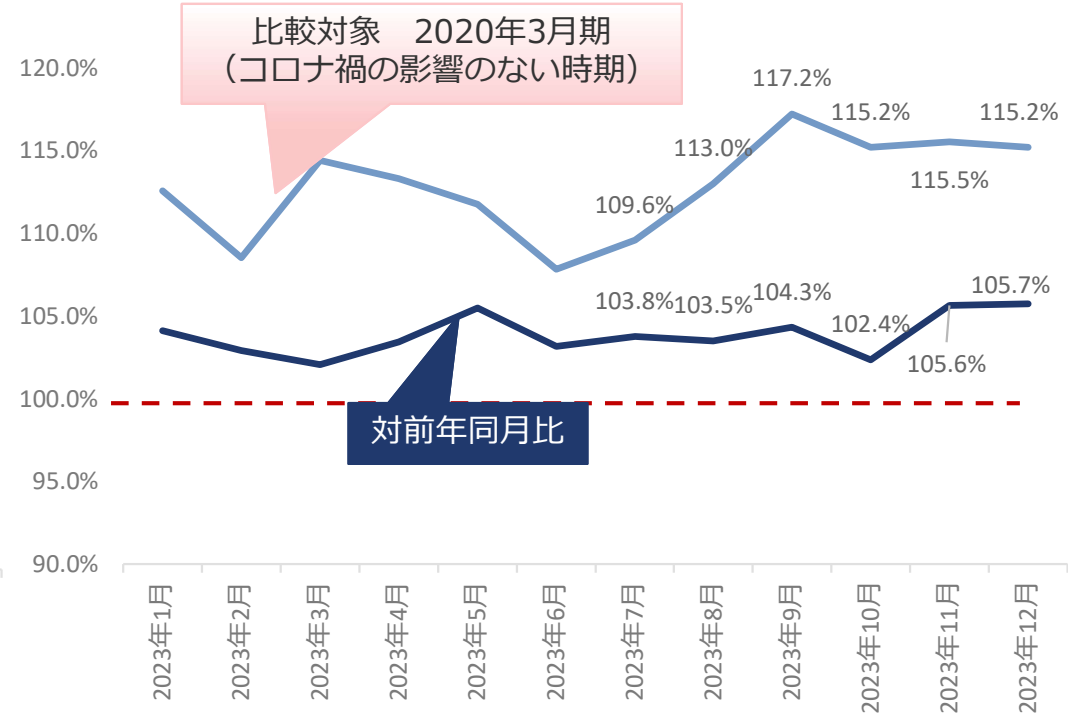
# 店舗事業（既存店客数・客単価（前年比、コロナ前比））

客数はコロナ前の水準には戻っていないが、一方、客単価は10%超の増加（コロナ前比、前年比）が断続的に継続しており、高付加価値戦略が定着化。

### 客数の推移



### 客単価の推移



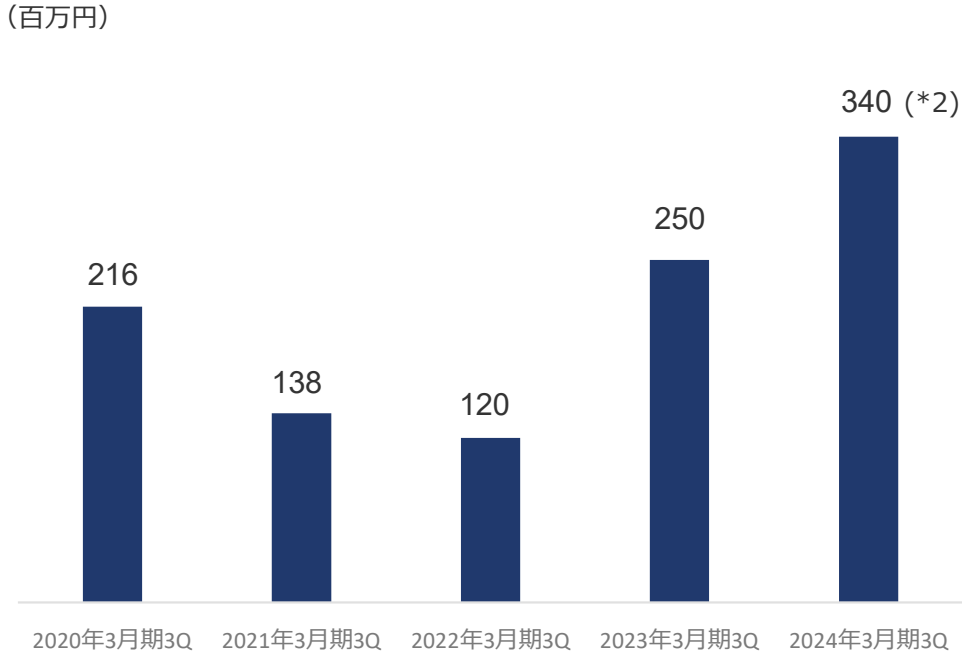
# 卸売事業

売上はコロナ禍を経て、今まで牡蠣の取り扱いを控えていた外資系ホテルや、外食チェーンなどの取引先数が拡大し、過去最高の売上を更新し、増収増益となった。

(百万円)	2023年3月期 3Q	2024年3月期 3Q	前年同期比	増減率
売上高	250	<b>340</b>	+90	+36.2%
営業利益 (*1)	80	<b>108</b>	+27	+33.7%
営業利益率	32.4%	<b>31.8%</b>	△0.6pt	—

\*1. セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

卸売事業 売上高推移



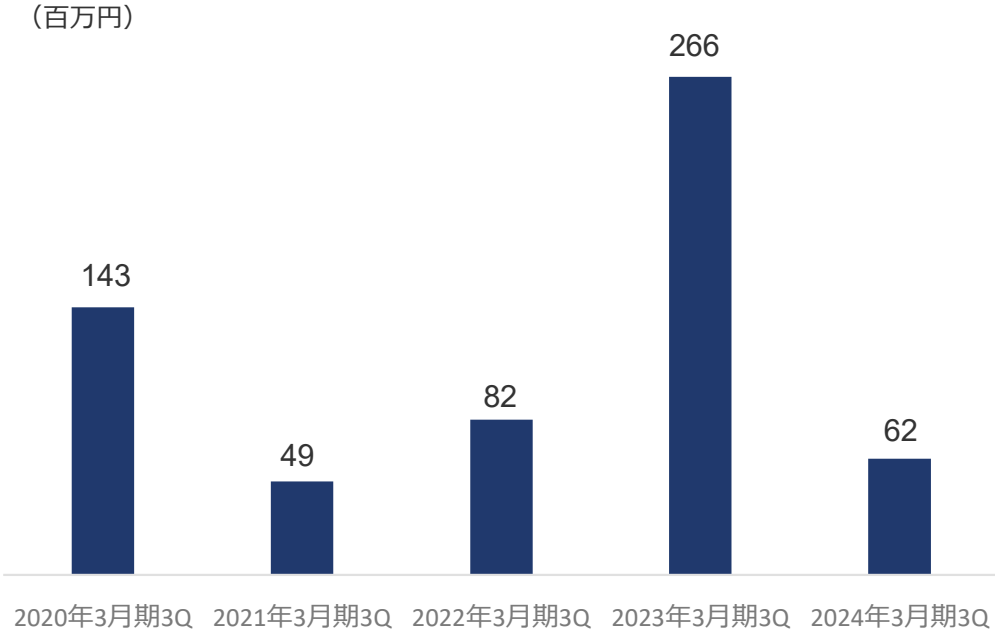
\*2. FC店舗の牡蠣の卸売売上を計上

# 加工事業

加工事業は受託事業の主力のホタテ加工が、ホタテの価格上昇により、回転すしチェーン向けの受注が2023年1月より大幅に減少し、減収減益となった。

(百万円)	2023年3月期 3Q	2024年3月期 3Q	前年同期比	増減率
売上高	266	62	△204	△76.6%
営業利益	△21	△54	△33	—
営業利益率	—	—	—	—

加工事業 売上高推移



\*1. セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

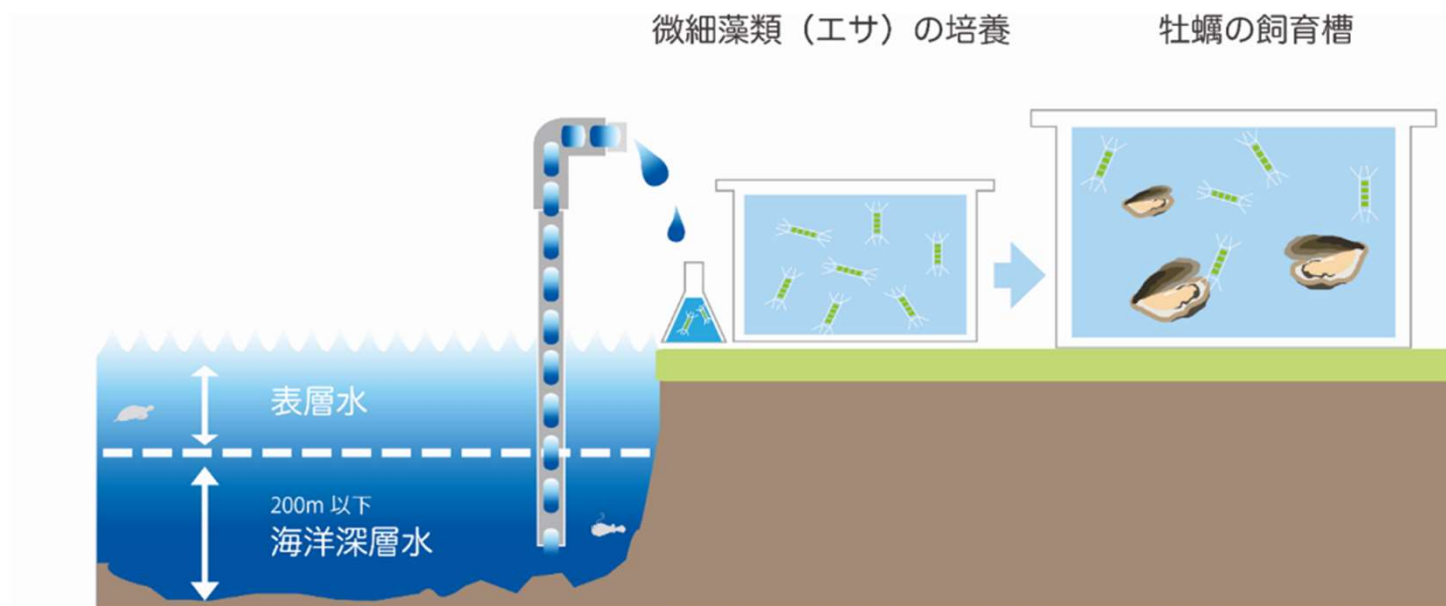
\*2. グループ各社への売上は原材料費のみ計上

## (参考) 陸上養殖事業

### 世界初！カキの完全陸上養殖の成功（2023年8月に発表）

国内外で陸上での種苗採卵や、稚貝と呼ばれる1～3cm程度までの生育は行われていますが、その後は海域に移動し生育されています。これは稚貝以降の成貝までの生育に必要な大量の餌となる微細藻類の培養が困難なことが大きな要因です。

微細藻類の大量安定培養技術、及び完全陸上で成貝まで成育させる飼育技術を確立したことにより、この度、ノロウイルスフリーの“あたらないカキ”の養殖が実現しました。これにより、これまでリスクが高いとされていた牡蠣に、確実な安全性をもたらすことができました。当社では、この“あたらないカキ”を「8TH SEA OYSTER 2.0」と名付けて、ブランド化を図ります。既に本技術は牡蠣の陸上養殖方法として特許を取得しています。（特許第6267810）また、海外においても台湾、中国、米国の3か国にて取得済み、1か国は出願審査中です。

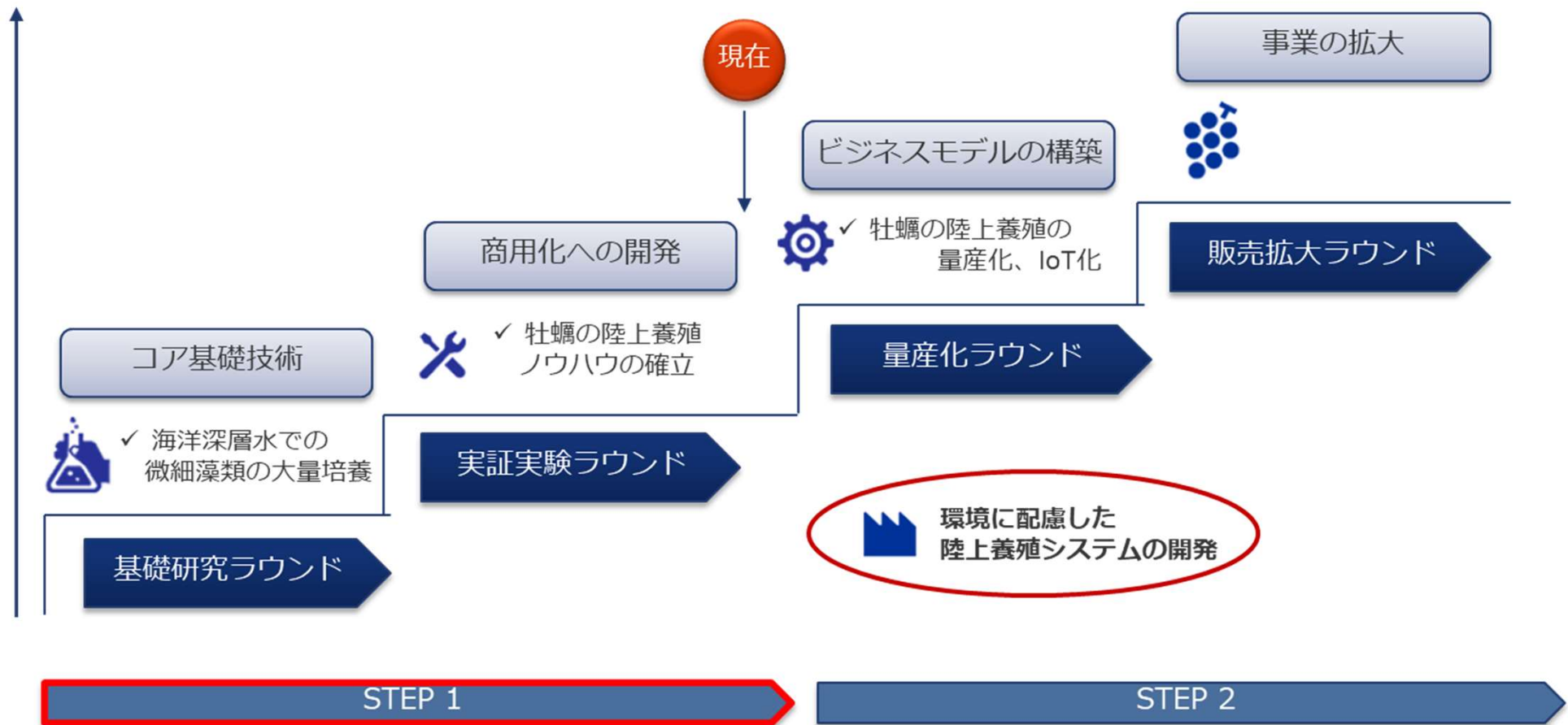




# (参考) 陸上養殖事業

## 陸上養殖の事業構想

牡蠣の陸上養殖は、今回STEP1のノウハウが確立したことで、今後は、「量産化ラウンド」のSTEP2に移行を目指していきます。量産化の時期は未定。

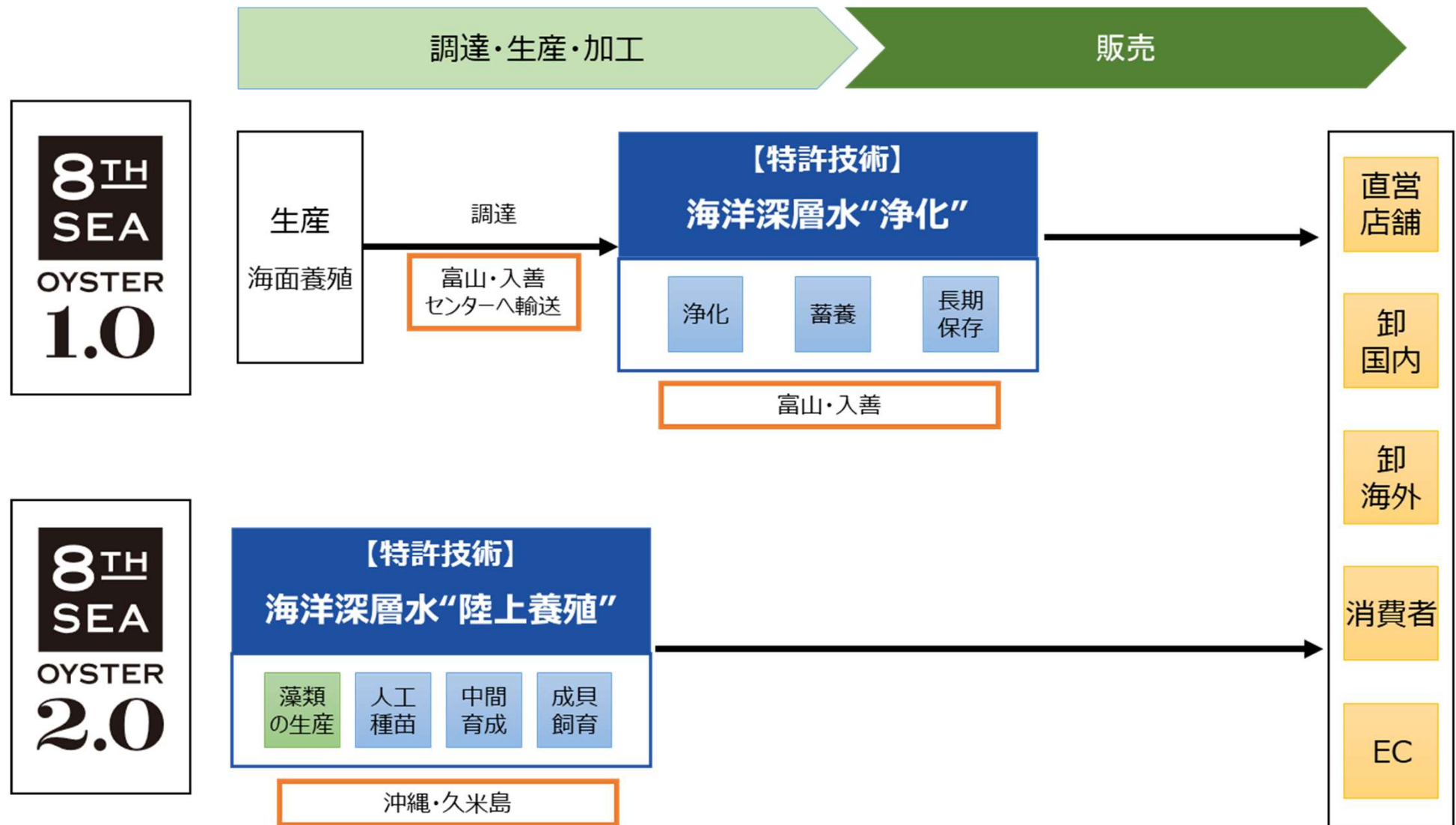


# (参考) 陸上養殖事業

## 今後の目指すグループの牡蠣の流れ (海洋深層水浄化 + 海洋深層水陸上養殖)

2.0の陸上養殖では、生産から水揚げまで、菌やウイルスに影響されない環境下で、養殖を完結。

1.0の海洋深層水の浄化では、牡蠣からいかに菌やウイルスを除去できるかでしたが、2.0の陸上養殖は牡蠣に菌やウイルスが影響されない環境で養殖を完結させる。



## 2. 今後の取り組みについて



# 2024年3月期の経営戦略の見込み

禍に臨機応変に対応しつつ、再成長へ向けた取り組み

方針	重点施策	進捗状況	活動計画
『守りの取り組み』	コストコントロールの徹底	◎	引き続き、推進
再成長に向けた 『攻めの取り組み』	「EC通販の強化」など 販売チャネルの多角化	◎	引き続き、売上伸長を推進
	店舗事業の収益拡大	◎	少ない売上でも利益を出せる筋肉質なコスト構造への転換が完了。今後も更なる定着化を進める。
	国内卸売事業の収益拡大	◎	2桁成長を維持し、更なる高利益体質に。
	海外輸出事業の収益拡大	△	資本業務提携先の阪和興業と共に、海外市場（特に、アジア、中東）の開拓を進める
	加工事業による収益貢献	×	稼働の改善を進める。
	店舗事業のITを活用しての効率化	○	引き続き、推進
	陸上養殖のアタラナイ牡蠣の ローンチ	◎	実証実験が終わり、量産化の検討を加速。

### 3. 2024年3月期 業績見通しについて



# 通期業績の見通しについて

2023年5月15日開示の通期業績予測に関しては、現時点で変更なし。

筋肉質なコスト構造の定着と、「守り」から「攻め」へグループ全体で質の向上を図り、次なるステージへ向け進化させていく。

(百万円)	2023年3月期 通期実績	2024年3月期 連結業績予想	前年同期比 (%)
売上高	3,764	3,896	+132 (+3.5%)
営業利益	127	130	+3 (+2.2%)
経常利益	128	128	-0 (-0.5%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	138	124	-14 (-10.2%)



**General Oyster**

## **免責事項**

本資料に記載されている将来に関する内容は、当社グループが資料作成時点において入手可能な情報に基づいたものであり、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。

特に当社グループの事業領域は、一般的な経済状況以外にも業績に影響を与えうる要因が数多く存在しているため、実際の業績等は様々な要因により将来の見通しと異なる場合があることをご承知おきください。